

nikkor club

特集

心動かすそれぞれの夏

nikkor
club





旅が大好きだ。写真と旅はとても相性がいい。どこへ行ってもホテルは「眺めのいい部屋」に泊まることにしている。そして、到着すると窓からの風景を必ず撮る。その地を俯瞰して、少しでも理解するためにおこなうルーティーンだ。ベトナムのリゾート地ダナン、夕方ホテルに着いたら海岸から海原にかけて墓標のような建物の影が長く伸びていた。Z5・NIKKOR Z 24-50mm f/4-6.3・プログラムオート・ISOオート



Photography
Portfolio — vol.9

ハナブサ・リュウ

CONTENTS

特集

10 心動かすそれぞれの夏

写真・解説 佐藤仁重／あき／森 誠／渡辺可緒理

02 第74回ニッコールフォトコンテスト作品募集

04 ニコンサロン ハナブサ・リュウ写真展 「N'oubliez pas —わすれない—」

28 受賞者はいま 【第73回ニッコールフォトコンテスト】 青木竹二郎／中野 剛／木下一浩／入山洗希

会報285号 サロン・ド・ニッコール

34 カラー部門

選評：大西みつぐ(1～3席) / 上田晃司(佳作)

46 モノクローム部門

選評：小林紀晴

54 ネイチャー部門

選評：秋山華子

62 得点表

64 予選通過者一覧

作品

06 THE GALLERYセクション展

「南極にて —第66次観測隊同行記録—」
大久保瑠衣 秋田魁新報社記者 写真展

表4 上田晃司× NIKKOR Z 35mm f/1.2 S

製品情報

24 PRODUCT REVIEW VOL.35

NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S II
上田晃司

連載

表2 Photography Portfolio Vol.9
ハナブサ・リュウ20 新製品の開発秘話、教えてください! 開発者Special Interview
Vol.3 NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S II26 アベっちの使った! 撮った! vol.13
Z5 II 24-105 レンズキット 阿部秀之32 エプソン 楽しくきれいにプリント講座 Vol.28
審査員が語る! フォトコンテストのプリント応募
三好和義

表紙写真 渡辺可緒理

夏、小樽堺町通り商店街の出世前広場に装飾される和傘。日中は撮影スポットとして多くの観光客が訪れますが、夜には昼間の賑わいが嘘だったかのように静寂に包まれます。風が吹けば、傘がかすかに揺れる音だけが響く。眠りにつきそうな小樽の夜の街の情景をとらえた一枚です。

Z8・NIKKOR Z 24-70mm f/2.8 S・f/4.5・1/15秒・ISO320

インフォメーション

08 第3回PHOTO HUB写真展

09 写真展スケジュール

65 会員限定 特別販売/
「Hello!ニッコールクラブ」イベントレポート

66 大好評!「プラザ点検パック」体験してきました!

68 NCニュース

70 PHOTO HUB 活動レポート

74 会員写真展 PickUP!
「Pakistan一周縁から都市へ」中沢賢治
「郊外断章」後藤安男
「林床の鼓動」山之内 徹
「里山の風を浴びる」林田 弘
「また明日」寄藤真一
マンツーマン写真講習会とは?

76 支部だより

77 イベントニュース「マンツーマン写真講習会」

78 Let's Go Nikon College!
「はじめてのポートレート写真」
1日体験講座「水野真澄
「Z CINEMA『ZR』で学ぶ
最高の光と物語の作り方」ハヤシアキヒロ

表3 Nikon College 7-9月講座

巻末 ニッコールクラブ登録情報変更依頼書
会報286号フォトコンテスト応募規定

Z6 III: Z 24-120mm f/4 S

f/11 · 1/640 秒 · ISO250

(撮影：森誠)



nikkor
club



nikkor
club

心動かす それぞれの夏

レンズ越しの夏景色はどこまでも澄み渡り、時にドラマチックを加速させます。

「透明感を強調したアクアリウム」や「夏の光と影が織りなす造形美」。

さらには「水辺の清涼感あふれるスナップ」、「ドラマチックな夜の色彩」と、

Zシリーズの描写性能を最大限に引き出した、夏の競演をお届けします。



影の中に潜む色彩

テーマは影。影を活かした撮影というのがメインですが、影の中で光を活かすというのもテクニックの一つ。オフィスビルの片隅で影の中に虹色に輝く光を発見。虹色を美しく魅せるために持っていた日傘を置き、その光を引き立てるアクセントとして、通行人を取り入れました。 Z6III・NIKKOR Z 24-200mm f/4-6.3 VR・f/8・1/250秒・ISO360

Chapter 1

影で描く 夏の造形

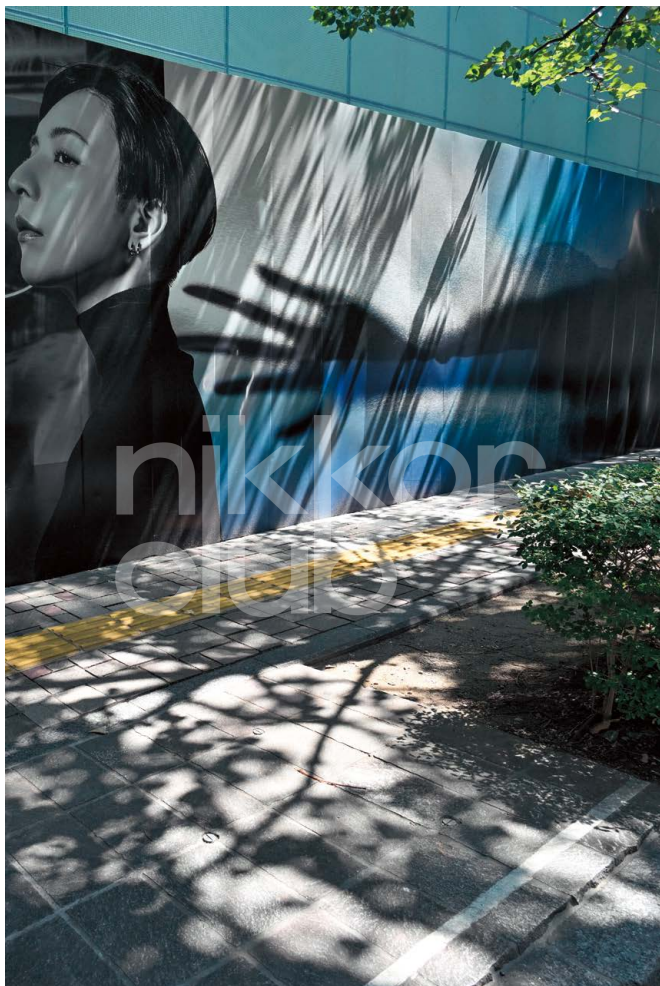
写真・文 佐藤仁重

昨今の夏の暑さはさすがに異常で、外に出るのを躊躇する人も多いと思われれます。しかし、夏ならではの光の魅力も忘れないうでいただきたいです。強い日射しに照らされた被写体を露出を丁寧に狙うことで、よりキリリとした絵づくりに繋げることができまます。強いコントラストの中で浮かび上がる影の存在を活かした構図づくり、あるいは露出づくりなど、いずれも大切な工程になります。影となる黒の描写を潰しすぎないように露出を加減し、質感を意識した撮影を心がけましょう。

私は日頃から「光と影」をテーマの一つとして撮影をしています。自然が作り出す影の形は、時間や光の強さによって

刻々と変化していきます。気になる情景に出会えた時は印象的な人物が来るのをじっくり待ったり、自分の立ち位置や画角を変えて撮影したり、その場所です。好奇心を持って撮影をする。好奇心を持って撮影をする。好奇心を持って撮影をする。思って丁寧に被写体と向き合います。

街スナップでは機材をシンプルかつ軽快にまとめることが多い。レンズは広角側で撮影することが好きですが、建物などを撮る時に縦のライン、横のラインの曲がりについては丁寧に決めるように気をつけています。広角レンズを愛用される方に多く見られることですが、中途半端な曲がりは見ている側に不安



壁面のアートと木漏れ日

ジリジリと照りつける強い日射しの屋下がり、アートが描かれた壁に木々のシルエットが映る面白い光景に出会いました。縦位置、横位置、距離を変えてその出会いを大切にさまざまな角度から撮影しました。お気に入りの一枚を狙うまでの探究心が大切です。Z6III・NIKKOR Z 24-200mm f/4-6.3 VR・f/8・1/250秒・ISO560

POINT

夏の陰影を活かすポイント5つ

- ① 夏の強い光を“避けずに活かす”
- ② 黒を潰しすぎず影の質感を残す
- ③ 気になる情景では
立ち位置や画角を変えて探る
- ④ 広角撮影ではラインの歪みに注意
- ⑤ 光の反射やシルエットを
構図に取り入れる



シルエットで際立たせる旅情

夏の青空は爽やかさを演出します。窓の向こうは発着航路のようで、次々と行き交う飛行機を眺めている人物の存在を観察しながら、露出をマイナス側へ少し補正し、人物のシルエットや青空をくっきりと見せるよう調整して飛行機がくるのを待って撮影しました。Z6III・NIKKOR Z 24-200mm f/4-6.3 VR・f/8・1/1500秒・ISO100



映り込みが広げるもう一つの世界

光の中に人物をシルエットで狙う時は、その人物の動きを観察して、その存在をしっかりと活かしてとらえることが大切です。そして水たまりやガラスなど、光の反射で広がる世界にも目を向けてみましょう。映り込みの光景がまた違うシーンを描き出します。Z6III・NIKKOR Z 24-200mm f/4-6.3 VR・f/8・1/250秒・ISO320

定さが伝わってしまいます。広角レンズで得られる広がりある構図、奥行き感、自分が伝えたポイントをしっかりと写し出す。ためにも、ファインダーの四隅を確認しながら落ち着いた構図作りに重点を置くことが大切です。

軽量化と性能の進化を両立した望遠ズームレンズ

NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S II



開放F2.8の望遠ズームレンズに、待望の新モデルが登場!

大幅な軽量化、描写性能・AF性能の向上など、あらゆる面で進化を果たしている。



上田晃司 = 写真・解説

うえだ・こうじ 米国サンフランシスコに留学し、写真と映像の勉強をしながら、テレビ番組、CM、ショートフィルムなどを制作。帰国後、フリーランスのフォトグラファーとして活動開始。ライフワークとして世界中の街や風景を撮影。近年では、講演や執筆活動も行っている。



NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S II

型式	ニコンZマウント
焦点距離	70mm-200mm
最大口径比	1:2.8
レンズ構成	16群18枚 (EDレンズ1枚、スーパーEDレンズ1枚、ED非球面レンズ1枚、非球面レンズ2枚、蛍石レンズ1枚、SRレンズ1枚、メゾアモルファスコートあり、アルネオコートあり、最前面のレンズ面にフッ素コートあり)
画角	34°20' - 12°20' (撮像範囲 フルサイズ/FXフォーマット) / 22°50' - 8° (撮像範囲 APS-Cサイズ/DXフォーマット)
焦点距離目盛	70、85、105、135、200mm
ズームリング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	マルチフォーカス方式、IF (インターナルフォーカス) 方式
手ブレ補正	ボイスコイルモーター (VCM) によるレンズシフト方式
手ブレ補正効果	6.0段 (中央・周辺) ※CIPA2024 規格準拠
VRモード	NORMAL/SPORT
三脚使用時ブレ補正	有り
最短撮影距離	焦点距離70mm時: 0.38m / 焦点距離85mm時: 0.38m / 焦点距離105mm時: 0.5m / 焦点距離135mm時: 0.6m / 焦点距離200mm時: 0.8m
最大撮影倍率	0.3倍 (焦点距離70mm)
絞り羽根枚数	11枚 (円形絞り)
絞り方式	電磁絞りによる自動絞り
最大絞り	f/2.8
最小絞り	f/22
フォーカス制限切り換えスイッチ	FULL (∞~0.38m) と ∞-5mの2段切り換え
アタッチメントサイズ (フィルターサイズ)	77mm (P=0.75mm)
寸法	約90mm (最大径) × 208mm (レンズマウント基準面からレンズ先端まで)
質量	約1180g (三脚座リング装着時) / 約1030g (保護カバー装着時) / 約998g (三脚座リング、保護カバーなし)



愛車のヘッドライトを点灯して撮影したが、メゾアモルファスコートとアルネオコートのおかげで、フレアやゴーストはほとんど目立たず撮影できた。厳しいシーンでも自由な構図で撮影できるのはとても助かる。

Z6 III・NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S II・f/2.8・1/25秒・ISO100・WBオート

持った瞬間に実感できる
前モデルからの軽量化

NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S IIは、前モデルの登場から約6年ぶりにリニューアルされた第2世代モデルだ。本製品の魅力は、なんといっても大幅な軽量化にある。質量は三脚座リング・保護カバーを外した状態で約998g。初代モデルの約1360g (三脚座リングなし) と比べると、約362gの軽量化を実現している。また、三脚座リング装着時でも、初代の約1440gから約1180gへと大幅に軽量化されており、手にした瞬間にその軽

さを実感できる。

NIKKOR Z 24-70mm f/2.8 S IIと組み合わせれば、初期型の大三元標準ズームと望遠ズームのセットに対して、システム全体で約400〜500g近い軽量化となる。2本をII型に替えるだけで機材全体の負担が大きく減り、撮影時の機動力を高めてくれる点は、大きな進化といえるだろう。

SSVCMの新搭載で
AF性能が大きく向上

AF性能も大きく進化している。本レンズはシルキースウィフトVCM (SSVCM) を採用



F11まで絞り込んで撮影。逆光の厳しいシーンでテストしてみたが、逆光にも十分耐えている印象。画像周辺まで非常にシャープでフェンスや石畳のディテールを細部までしっかり確認することができた。Z6 III・NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S II・f/11・1/200秒・ISO100・WBオート

最短撮影距離は70mmの時0.3mとなっている。最大撮影倍率は0.3倍と近接撮影も余裕でこなせる。サイズ感が分かりやすいように100円玉やフィルムを入れてみたが70mmでこれだけ大きく撮影できれば花や昆虫など撮影も余裕だろう。Z6 III・NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S II・f/16・1/100秒・ISO100・WBオート



し、従来モデル比で約3・5倍の高速化を実現した。Z6のレスポンスの良さは撮影中すぐに体感でき、ねらった被写体を的確にとらえることが可能だ。

AFスキャンタイムは約45%短縮されており、手前から奥、あるいは奥から手前へと移動する被写体を追従する場面でも、ストレスなく撮影できる。初代モデルでもZ6レスポンスは十分に優秀だと感じていたが、本製品ではさらに一段上の領域に進化した印象だ。スポーツやポートレート、動物、乗り物など、動体を主に撮影するユーザーにとって、大きなメリットとなるだろう。

申し分のない

描写性能

操作性・機動性も進化

画質に関しても、さらなる進化が感じられた。レンズ構成は初代の21群18枚から16群18枚となり、軽量化に貢献しているうえ、ク

リアで抜けるよい描写を実現している。蛍石レンズ、スーパーEDレンズ、EDレンズなど

どを採用した贅沢なレンズ構成により、各収差をしっかりと補正し、非常にシャープな描写を楽しめる。

レンズにはメソアモルファスコートとアルネオコートが施されており、逆光耐性はかなり高い。実際に愛車を撮影してみたが、強いヘッドライトを点灯した状態でも、フレアやゴーストはほとんど感じられなかった。前モデルでも同じシーンを撮影したところ、フレアに加えてゴーストも発生したため、本製品の逆光性能がいかに優秀か理解できた。

ほかにも、最短撮影距離は広角端70mm時で0・38m、最大撮影倍率は0・3倍となっており、近接撮影にも強い。絞り羽根枚数は11枚となり、少し絞った際の丸ボケもより円形に近づいている。レンズZボタンの増設され、カスタマイズ性も申し分ない。まさに完成度の高い一本に仕上がっていると感じた。

前モデルを現在使っている方はもちろん、最高の画質と機動力を求める多くの方におすすめできるレンズだ。ぜひ一度、その進化をご自身で体感していただきたい。

岐

岐阜県海津市の「今尾の左義長」は竹神輿を男たちが担いで集まり、

最後には積み上げて御神火で燃やすダイナミックなお祭りだ。青木さんはこのお祭りに二度足を運び、この三枚の写真を撮影した。

「初回に行った時がローアングルから撮っている二カットで、流し撮りで撮っているのが二回目に行った時のものです。その日一日で六〇〇カットくらい撮っていますね。選んでいるのは一六五カットで、そこから今回の三カットを選びました」

連写は無闇に使うのではなく、五、六カットにとどめる。撮りたい一瞬を狙うからだ。セレクトにもあまり迷わない。

「パソコンに取り込んでサムネイル表示で見ると、これ〇〇という一枚がわかる。撮った時の感触と大体一致しています」

撮影とセレクトで終わりでではない。青木さんはレタッチを重視し、レタッチの解説書も書いてあるほどだ。

「レタッチに力を入れるのは肉眼で見た時よりもさらに印象を強くしたいから。私は印象的に見せるために逆光で撮ることが

FILE 01 自由部門(組写真) 入選作家

青木竹二郎



「躍動する左義長」



「コンテストに応募したことで北海道から沖縄まで知り合いができました。」



「仕事を退職した現在はOBならではの暇な時を過ごしています」と青木さん。

多いのですが、そのままでは背景が白く抜け、主要な被写体がアンダーになってしまふ。そこでレタッチで被写体を立たせて、空は抑えを利かせます。炎の色も元のデータではここまで赤くはなく、もつと薄い。炎の部分にマスクをかけて、色温度で赤みを少し足しています」

レタッチのコツを聞くと「仕上がりのイメージを持つこと」という答えが返ってきた。

フィルム時代にはカラードリントを自分で手がけるなど、色の研鑽を積んできた。ニッコールフォトコンテストの初入選は一九七七年、二十五歳の時。これまで六十五作品が入賞しているベテランである。

「コンテストに応募してよかったのは、受賞をきっかけに写真が上手な人と出会えたことです。北海道から沖縄まで知り合いができました」

テーマよりも画になる瞬間を追い求める。その自由な姿勢はさらに可能性を広げている。

「デジタルで自由度が広がり、イメージにより近い写真が得られるようになりました。これからもコンテストにチャレンジしたいですね」



あおき・たけじろう_写真歴53年。1952年、神戸市生まれ。ニッコールフォトコンテストへは1975年に初応募、1988年だけ多忙のため応募はできなかったものの、今まで50回応募。2015年ニッコールフォトコンテストで長岡賞受賞、著書にフォトレタッチ実践講座(日本写真企画社刊)。



ワークショップ 4月4日(土)

春を感じる1枚を撮影しよう! in 東京・神代植物公園

秋山華子 先生

秋

山華子先生と一緒に花・植物を撮影するワークショップを、神代植物公園にて開催しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、それぞれ傘やレインコートを身に付けてしゃくなげ園→築山→宿根草園→大温室と回りました。

出発時は雨でしたが、しゃくなげ園を過ぎる頃には小降りになりました。桜をはじめとする園内の花々はしっとりとした表情を見せ、雨ならではの画作りに最適なコンディションでした。

秋山先生は、雨天ならではのカメラ設定や被写体の見つけ方を実演で教え、各スポットで参加者の皆さんに丁寧にアドバイス。学んだことをその場で試せる充実した時間となりました。



先生にすぐ

相談できて安心!



(上) 弥生2.0さん「語らい」

(右) toshiさん「もうすぐ」



上田晃司 × NIKKOR Z 35mm f/1.2 S



Z6III · NIKKOR Z 35mm f/1.2 S · f/1.2 · 1/200秒 · ISO125

人と向き合う距離で
息づかいまで写し取り
ときに背景を
大胆に取り込みながら
旅先の日常を
ドラマへと変えていく。
NIKKOR 35mm f/1.2 Sが
描く光景は
まるで映画の
ワンシーンのようだ。